

2025年8月8日

外国送金ワークフローサービス「SurFIN」と 国際勘定系「OpenE'ARK-ONE」を連携し外国送金事務の自動化を実現 ～商工中金における事務のペーパーレス化と、クロスボーダー送金基盤の 構築プロジェクトに参画および今後の取り組み～

BIPROGY は、Swift^{注1}のISO20022移行に対応するため、外国送金ワークフローサービス「SurFIN（サーフィン）」および国際勘定系システム「OpenE'ARK-ONE（オープン・アーク・ワン）」の連携機能を開発し、株式会社商工組合中央金庫（代表取締役社長：関根 正裕氏、以下、商工中金）におけるISO20022への移行で外国送金業務の自動化と月間約2万枚のペーパーレス化を実現しました。また、商工中金は、Progmatt, Inc.（代表取締役：齊藤 達哉氏、以下 Progmatt）と、株式会社Datachain（代表取締役：久田 哲史氏、以下 Datachain）が推進する、ステーブルコイン（以下 SC）を活用したクロスボーダー送金基盤の構築プロジェクト「Project Pax^{注2}（プロジェクトボックス）」の実務検証に国内最初の金融機関として参画しており、BIPROGYは商工中金の技術サポートを行います。今後、次世代の送金業務における革新的な業務変革を支援していきます。

【商工中金における導入の背景と成果】

外国送金におけるSwiftのISO20022では、情報の細分化や電文ルールが複雑化される一方で、G20では、2027年末までにグローバルにおける送金の平均コストを1%以下に抑え、かつ送金の75%を1時間以内に受取人受領を可能にすることを目標に掲げています。これらを達成するには、新しいテクノロジーを活用しながら事務の徹底的なSTP化^{注3}を追求することが必要となります。

BIPROGYでは、「SurFIN」と「OpenE'ARK-ONE」を効率的に連携できる機能を開発し、受付から記帳決済までの事務の自動化を実現することで、業務工程全体での抜本的なペーパーレス化と事務負荷軽減が可能となりました。商工中金への25年1月の「SurFIN」および「OpenE'ARK-ONE」導入において、従来の書類ベースの業務を抜本的に見直し自動化を推進した結果、以下のような成果を上げています。

1. 月間約2万枚以上のペーパーレス化

- 送金データをシステム間で効率的に連携することにより、受付からデータ入力までの事務工程で発生していた書類を、月間約2万枚以上削減
- 書類内容のチェックや入力操作後の検印などの事務も削減

2. 勘定オペレーションの自動化により繁忙日の業務を平準化

- 「SurFIN」で受け付けた送金依頼データを「OpenE'ARK-ONE」に連携し、勘定オペレーションを一括で自動化
- 「OpenE'ARK-ONE」では先日付送金が期日管理され、送金指定日に決済データとして「SurFIN」に連携

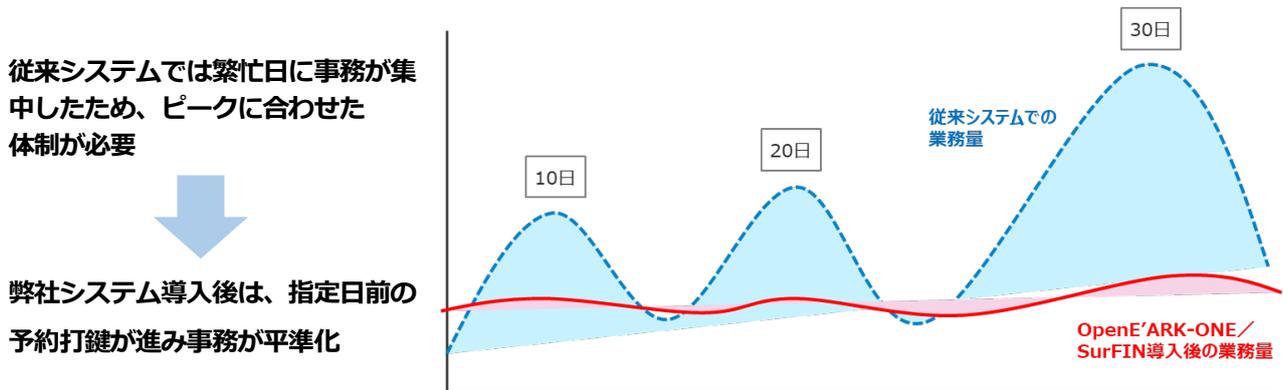
3. 顧客サービスの向上

- 外国送金の事前予約ができる「おうちで SurFIN」を活用することで、仕向送金の約10%を占める店頭受付において、事前予約受付にシフトし、お客さまの店頭での待ち時間や手続きに要する時間を大幅に短縮
- 誰でも分かりやすい案内画面により、入力誤りによる営業店と事務センター間での手戻りを減らし、迅速な取引受付を実現

■システム導入後の仕向送金事務の流れ



■システム導入後の事務平準化イメージ



また今後の取り組みとして、「SurFIN」および「OpenE'ARK-ONE」を通じてSwiftサービスとのAPI連携やSC決済基盤の活用を進め、さらなる業務効率化と顧客利便性の向上を目指したプロジェクトを開始しています。

【外国送金のSTP化で実現する業務効率化および顧客利便性向上に向けた取り組み】

従来の金融機関の外国送金システムにおいては、外為Web、国際勘定系、ドキュメントシステムの関連システムが直列で連携していたため、指定日当日に勘定処理を行ってからデータ入力を行う必要があり、月末などの繁忙日の業務負荷が大きい状況でした。

「SurFIN」および「OpenE'ARK-ONE」では、受付から発電までをワークフローで管理でき、勘定処理と並行して業務を処理することが可能になります。その結果、先日付の送金を「OpenE'ARK-ONE」にあらかじめ連携しておき、送金指定日の相場公開後に決済されたデータが順次「SurFIN」に連携され、電文を自動作成できるようになるため、従来の繁忙日の負荷が大幅に削減されます。また、この一連の工程はワークフローで一元管理できるため、事務の自動化を推進できるようになります。

【商工中金のコメント：今後の送金コスト削減に向けた取り組みについて】

商工中金では、外国送金を始めとした更なる業務効率化やサービス向上を目指して参ります。直近では、Progmatt および Datachain が推進するクロスボーダー送金基盤構築に向けた、プロジェクト「Project Pax」のPoCに先行参画し、実務検証を進めております。システムおよびオペレーション観点での対応可能性を検証するため、「SurFIN」でSC決済用のMX電文を作成しSC送金基盤に連携できるよう、BIPROGY から支援を受けております。今後、本実務検証結果をもとに、AML/CFT や規制対応、既存オペレーションとの複線化などの課題を解決し、次世代の外国送金サービスの実現に向けて取り組んでまいります。

【Progmatt・Datachainのコメント：Project Paxの推進について】

Project Pax は、銀行および銀行の顧客が既存オペレーションを大きく変えることなく、より便利なクロスボーダー送金体験を得られることを目指し、Swift の既存アセットの活用と各国金融機関との連携により、ステーブルコインによるクロスボーダー送金基盤の構築を進めています。

※注1：Swift (Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication)
国際銀行間通信協会

Swift は 200 を超える国と地域における 11,000 以上の銀行、証券会社、市場インフラ、事業法人などをつなぐ通信プラットフォーム、および各種製品・サービスを提供

※注2：Project Pax

Swift の既存アセットの活用と各国金融機関との連携により、AML/CFT、規制対応、既存オペレーションとの複線化、企業によるウォレット利用といった種々のハードルを解消する、クロスボーダーSC送金基盤の構築を目指すプロジェクト

2025年4月24日付 Progmatt・Datachain ニュースリリース

「Project Pax」フェーズ2（実務検証）の開始および商工組合中央金庫の先行参加について
<https://www.datachain.jp/ja/news/shoko-chukin-project-pax-poc>

※注3：STP化

STP (Straight-Through Processing) 化とは、証券取引において約定から決済に至るプロセスを、標準化されたメッセージ・フォーマットによりシステム間を自動的に連動させることによって、人手を介さずに一連の作業をシームレスに行うこと

■関連リンク：

- ・外国送金受付ワークフロー「SurFIN」
<https://www.biprogy.com/solution/service/surfin.html>
- ・2024年12月6日付 ニュースリリース
外国送金受付ワークフロー「SurFIN」がSwift接続認定取得
https://www.biprogy.com/pdf/news/nr_241206.pdf
- ・『ISO20022対応版「SurFIN」』で外国送金がますます便利に！
<https://youtu.be/TsbB229FXLs?si=19Ej0DOqUhNeSkcv>

※SurFIN、OpenE'ARK-ONE は、BIPROGY 株式会社の登録商標です。
※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<報道関係者お問い合わせ窓口>

https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/

BIPROGYグループの「経営方針（2024-2026）」

「持続性のある事業ポートフォリオ確立による企業価値の向上」、「経営資源配分の最適化」、「グループ経営基盤の強化」の3つの基本方針を基軸に、「コア事業」と「成長事業」の両輪で事業拡大を図ります。



【コア事業での取り組み】

BIPROGY グループが経営方針（2024-2026）で掲げるコア事業戦略として、五つの注力領域を定め、経営資源の集中により高い価値提供を目指します。本ニュースリリースの事業は、「ファイナンシャル領域」における取り組みと位置付けています。

BIPROGY グループは、多くのステークホルダーとの共創を通じて、地域経済の活性化を支援し、持続可能な社会の実現を目指します。

※BIPROGY グループ経営方針（2024-2026）

<https://www.biprogy.com/pdf/com/managementpolicy2024-26.pdf>